

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	愛媛県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	松山市立高浜小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	21
児童数	43	57	61	73	76	65	2	377	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身に付け、共によりよく生きる児童の育成
---------------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・算数 積み重ねが重視される教科で、上学年になるにつれて個人差が拡大する傾向にあるため</p>
---

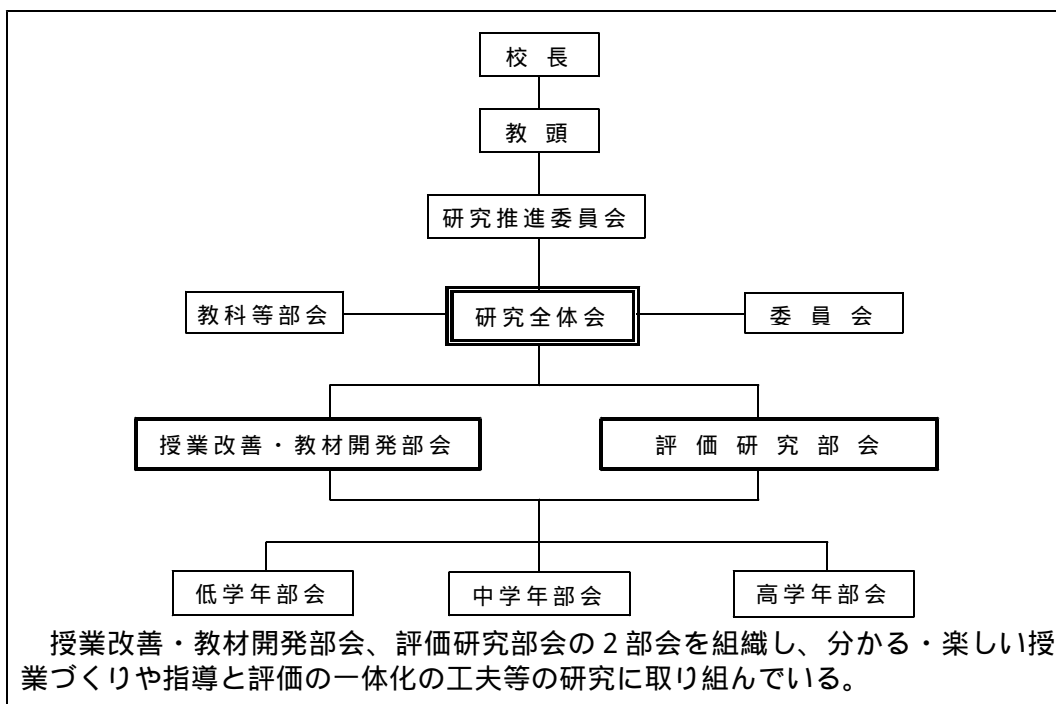
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 確かな学力を身に付け、共によりよく生きる児童の育成 研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童一人一人の実態を把握し、個に応じた支援や評価を工夫すれば、基礎・基本の定着を図ることができるであろう。</li> <li>・ 単元構成を見直し、算数的活動を効果的に位置付けることにより、課題追求の意欲を高めるとともに自ら考える力を伸ばすことができるであろう。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 基礎研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究方向の見極めと研究全体計画の策定</li> <li>・ 児童の実態把握と分析</li> </ul> <p>イ 確かな学力を培うための実践研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫として、算数科を中心にT・Tや少人数指導を推進する。</li> <li>・ 単元の目標分析と学習内容の検討を行い、児童が主体的に学ぶことのできる単元構成を工夫する。</li> <li>・ 学習内容、学習活動に即したより客観性のある評価規準を作成し、指導に生かす。</li> </ul> <p>ウ 14年度の研究成果と課題の明確化</p>
--------	--

平成 15 年 度	<p>テーマ 確かな学力を身に付け、共によりよく生きる児童の育成 研究の見直し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童一人一人の実態を踏まえ、個に応じた支援や評価を充実させれば、分かる喜びや学ぶ楽しさを味わわせることができ、基礎・基本の確実な定着を図ることができるであろう。</li> <li>・ 体験的活動を充実させ、学習展開の工夫をすることにより、課題追求の意欲を高めるとともに、学び方を身に付けさせることができるであろう。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 基礎研究 研究全体計画の策定並びにカリキュラムの見直し</p> <p>イ 研究主題に迫る教育課程の創造と授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ T・Tや少人数指導による課題選択や習熟度別学習等、個に応じた指導のための指導方法・指導体制を工夫改善する。</li> <li>・ 学習ステップに応じた練習プリントやワークシート、ヒントカードの作成する。また、発展的・補足的な学習のための教材や資料の開発と実践を行う。</li> <li>・ 自己評価や相互評価を取り入れ、学習や指導に生きる評価の工夫をする。</li> </ul> <p>ウ 15年度の研究成果と今後の課題の明確化</p>
--------------------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 確かな学力を身に付け、共によりよく生きる児童の育成 研究の見直し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童一人一人の実態を踏まえ、個に応じた支援や評価を充実させれば、分かる喜びや学ぶ楽しさを味わわせることができ、基礎・基本の確実な定着を図ることができるであろう。</li> <li>・ 体験的活動を充実させ、学習展開の工夫をすることにより、課題追求の意欲を高めるとともに、学び方を身に付けさせることができるであろう。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 基礎研究 研究全体計画の策定並びにカリキュラムの見直し</p> <p>イ 研究主題に迫る教育課程の創造と授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制を工夫改善し、T・Tや少人数指導を充実させる。</li> <li>・ 指導内容の充実を図るとともに、指導過程の工夫をする。</li> <li>・ 学習や指導に生きる評価の工夫改善を行う。</li> </ul> <p>ウ 研究成果と新しい研究方向の見極め</p>
--------------------	---

### (3) 研究推進体制



#### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

##### 1. 研究の成果

単元や児童の実態に合わせて、2人の教師で1学級を指導するT・Tや等質グループでの少人数指導、課題別・習熟度別のコースによる少人数指導、2学級3Tによるコース別指導を行ってきた。このように指導形態を弾力的に扱うことで、学習内容の理解度が徐々に上がってきており、特に、一斉型の学習ではなかなか支援の手が届きにくい児童（算数を少し苦手とするけれども、全く理解できないわけではない児童）の表現・処理等の実力アップが図れた。

T・Tや少人数指導についての意識調査では、「発表しやすい。」「分かりやすい。」「自分に合った課題で勉強できる。」など、肯定的な意見が多く見られ、約82%（昨年度より5ポイント上昇）の児童が算数の学習を好むなど、学習意欲の高まりが感じられた。

ヒントカードやパソコンのプレゼンテーションソフトを使ったヒントを作成し、思考の手助けとした。これらを活用することにより、自分なりの考えを持ちにくい児童にも、課題解決の喜びを味わわせることができた。

自己評価カードや算数日記を書かせることで、児童がその時間に感じたことをつかんだり、評価補助簿を活用して、個々のよさやつまづきを把握したりして、次の活動の支援や授業の進め方に生かすことができた。

##### 2. 今後の課題

コミュニケーション能力の育成と練り合い場面の活性化への支援  
教材や教具、指導資料の開発・改良と蓄積  
算数科における実践の他教科への広がり・発展  
家庭学習の習慣化への働きかけ

学力等把握のための学校としての取組

算数科学習やT・T、少人数指導についての児童の意識調査の実施  
(年2回 2学期、3学期)  
標準学力調査(CRT)の実施 (年2回 1学期、3学期)  
1学期は、4～6年生の算数、3学期は、全学年の算数と5年生の国語、  
社会、理科で実施。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

地区協議会で報告(15年度)  
校区中学校との交流研修会で発表  
16年度に研究発表及び授業公開予定(6月頃)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語               社会               算数               理科  
                                  生活               音楽               図画工作       家庭  
                                  体育               その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有               無